

荒れる山林 復活は

オピニオン & フォーラム

木材値崩れ 国の政策で拍車



1953年生まれ。大学卒業後、三重県南部で家業の林業に従事。日本林業経営者協会会長などを歴任。

日本は国土の3分の2が森林で、うち7割は民有林です。森林機能の維持のためは全て公的に管理するのではなく、可能な限り林業という形で回すのが安上がりなはず。ところが林業の担い手は減り、伐採と造林がうまく循環している例は極めて少数です。最大の原因为、木材価格の低迷です。

戦後は復興需要に供給が追いつかず、インフレもあり木材価格は高度成長期を過ぎも高騰を繰り返した。この間、丸太の輸入外税が撤廃され、住宅メーカーは関税にシフトしました。ところが、1980年をピークに木材価格は下落し、為替レートの円高暴落になり外材が安くなくなった。国内の木材需要も頭打ちから減少カブを描き始めた

速水林業社長 はやみ とおる 速水 亨さん



山にお金が戻ってこない。だから切った後で造林する意欲が失われてしまった。50年から70年にかけて年間30万立方メートル以上植林していたのに、今は2万立方メートルしか植えないくなりました。これは、資源的

の拍車がかけたのが、2000年以降の国の政策です。買った木を間引く「間伐」で補助金を出し、さらに、山に切り捨てておくのはもったいないからと市街に搬出するよう誘導した。戦後には造成された人工林が充実し、本格的な利用期を迎えつつありました。ブドウ酒でパンパンに膨らんだ革袋に針で穴を開けたように、あつという間に間伐材が市場にあふれ、木材価格が値崩れしてしまいました。

にも環境保全の面でも、持続可能な森林管理とは言えません。そもそも2000年ごろに国の林業政策が変わったのも、環境問題への対応を迫られたためです。地球温暖化対策として97年に国際会議で採択された京都議定書で、日本は二酸化炭素(CO2)排出を6%削減する。3・8%は森林吸収量とすることを認められました。吸収源としてカウントされるのは、手入れをした森林、というところだったので、間伐を施すことになったのです。林業施策というより、社会的な安定を増すための施策と言っているようです。

国民が森林に期待する役割も、治山や水源涵養と並んで、近年は温暖化対策が世論調査で上位に来ます。では、こうした役割を担う費用はどのくらいか。二つに分けて考えられます。一つは森林を管理しなくても、存在するだけで発揮される公益的機能に対する費用。水源涵養や、山崩

木材価格の低迷や過疎化などを背景に、林業の担い手の減少傾向は続き、手入れをされずに放置された森林の問題になっています。防災や水源確保、温室効果ガス削減などの森林が持つ機能を維持し、林業を盛り上げるにはどうすればいいのでしょうか。



1961年生まれ。大分県のご研究指導センター研究員などを経て、2007年から現職。共著に「林業新時代」。

九州大学大学院教授 さとう のりこ 佐藤 宣子さん

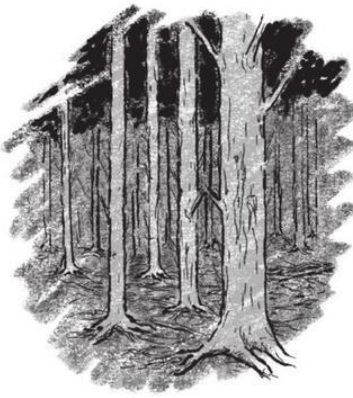


林業の従事者は減少傾向が続き、山林が荒廃しています。対応策として、政府は森林を意欲と能力のある林業経営者に集約し、大規模化を進める「森林バンク」を創設する方針です。林業の規模拡大を通して、収益性を高めようとする産業政策です。しかし、大規模を促す政策によって、地域に住み続ける小規模な林業経営者が陥るのでは、ないかと懸念されています。

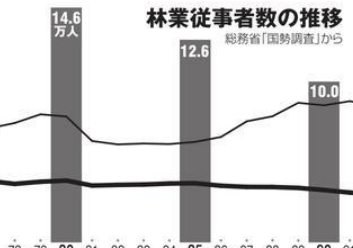
た。しかし、木材価格の低迷によって、多くの公社が多額の負債を抱え、経営破綻しました。むしろ時代の変化に柔軟に対応してきたのは、小規模な事業者たちだと思えます。様々な林業の現場を訪ねていますが、森林の所有者、製材所、工務店、建築士が連携し、施主を山に招いて伐採の現場を見てもらう「雇住住宅」の仕組みを作りあげると、新しい需要を掘り起こしています。

こうした動きの中で注目されているのが「自伐型林業」です。山を所有する人や借りた人が、森林の管理、間伐などの施業、販売までをすべて自分で行う小規模な林業です。必要な分を少しずつ切っていくため、運搬用の作業道も小規模。山の負担が少ない環境保全型の林業です。

福井県のある山村では、おぼろちゃんに移住してきた若者に「イン」に食われてしまう前に山のタケノコを取ってきて」と頼み、その若者が届けるといふ信頼関係が築かれていました。そこで林業が高齢者を見守る福祉の側面もあると感じました。若者は仕事や地域のふれあいを通して、生きる充実感を得ています。



林業従事者数の推移



小規模な担い手暮らしの柱

昨年の九州北部豪雨で被災した福岡県朝倉市や東峰村に調査に入

輸入木材と国産木材の供給量の推移

